

# 露地夏秋キュウリの全期間防虫ネット被覆栽培 におけるミツバチの放飼による流れ果防止

福島県農業試験場 野菜部

平成14年度福島県農業試験場試験成績概要

分類コード 03-01-35000000

部門名 野菜-キュウリー施設・資材

担当者 藤田祐子

## I 新技術の解説

### 1 要旨

露地夏秋キュウリの防虫ネット被覆栽培は、アブラムシが媒介するウイルスの感染を防ぎ、殺虫剤の散布回数を削減できる有効な技術であるが、被覆期間中の流れ果発生が問題となっている。このため、ミツバチ放飼による流れ果防止法を開発した。

- (1) ミツバチ放飼により、流れ果の発生が抑えられた(表1)。
- (2) ミツバチ放飼区の収量は、慣行栽培及び防虫ネット被覆(ミツバチ放飼なし)に比較して高かった(図2)。
- (3) 流れ果防止効果はミツバチ放飼頭数、2,000頭/a、4,200頭/aとで大きな差がなかった(表1)。

### 2 期待される効果

- (1) ミツバチ放飼により流れ果の発生が抑えられ、定植時から収穫終了時までの全期間被覆栽培が可能となる。
- (2) 露地キュウリのほ場を防虫ネット全期間被覆することによって、アブラムシが媒介するウイルスの感染を防ぐことができ、栽培期間中の殺虫剤使用は大幅に削減できる。
- (3) 雹害、風害など気象災害の回避効果が期待できる。

### 3 適用範囲

急性萎凋症が多発する地域や、ウイルス感染被害の大きいほ場で有効である。

### 4 普及上の留意点

- (1) 放飼初期はキュウリの花数が少ないので給餌する必要がある。
- (2) 被覆に使用するネットは、1mm目合・透明の防虫用ネットとする。
- (3) 強風で被覆がはがされないよう留意する。
- (4) 防虫ネットの経費は、ミツバチ代金を含め、年負担額100千円程度である。

## II 具体的データ等

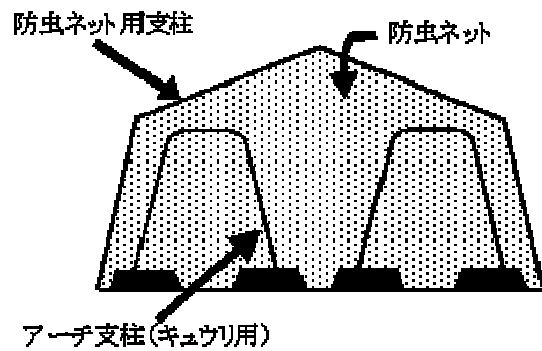


図1 被覆方法

表1 流れ果の発生（4月30日播種、5月24日定植、8月7日調査）

|              | 総節数(節) | 総雌花数(個) | 流れ果数(個) | 流れ果率(%) |
|--------------|--------|---------|---------|---------|
| 被覆+ミツバチ4200頭 | 214.7  | 183.0   | 7.2     | 3.9     |
| 被覆+ミツバチ2000頭 | 203.2  | 185.0   | 2.8     | 1.6     |
| 被覆のみ         | 211.2  | 188.0   | 35.1    | 18.9    |
| 無被覆(慣行栽培)    | 196.4  | 186.0   | 6.9     | 4.2     |

注1) a 当たりミツバチ頭数

注2) 総雌花数は、収穫済み・未収穫・流れ果の総数

注3) 流れ果率：(流れ果数/総雌花数) × 100(%)

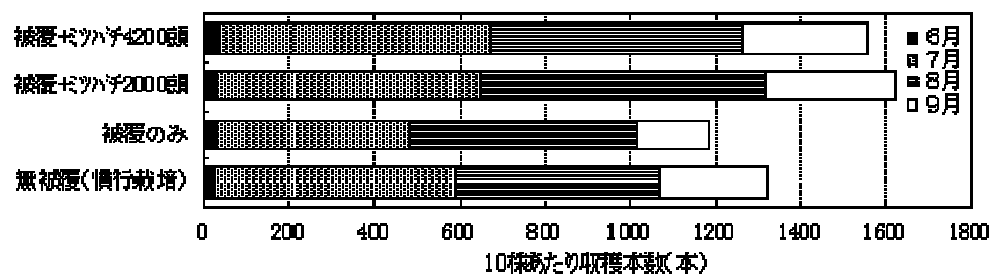


図2 時期別収穫果数(可販果数)

### Ⅲ その他

#### 1 執筆者

藤田祐子・高橋 徹

#### 2 主な参考文献・資料

なし